無線LAN編

無線LAN設定

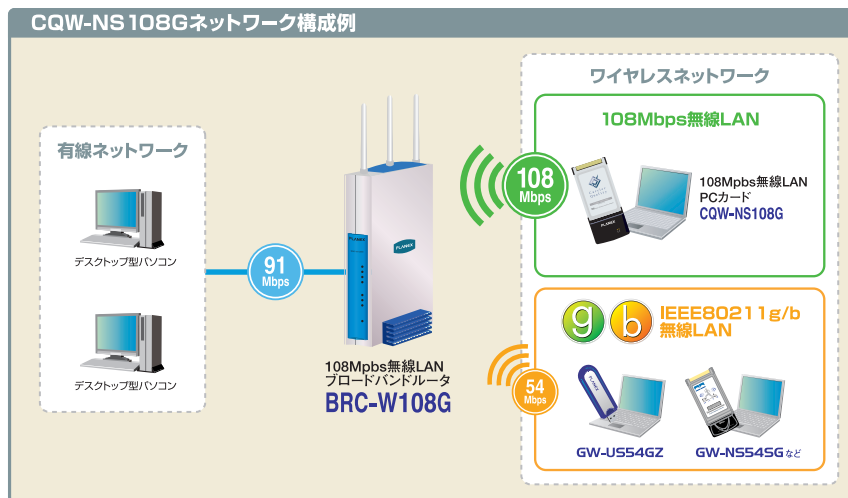
本製品の無線LANの設定方法を説明します。

無線LANについて

本製品はMIMO技術に対応した無線LANの機能を搭載しています。

MIMOに対応した無線LANアダプタを使うことで最大108Mbpsの高速な伝送速度に対応します。

802.11b/gとの互換性もあり、MIMO対応の無線LANアダプタと混在した利用も可能です。

●BRCシリーズを利用した無線LANの例

無線LANの設定画面を表示する

本製品の無線LANの設定方法を説明します。無線LANの設定は本製品からLANケーブルで接続したコンピュータから設定します。

1. 本製品とパソコンをLANケーブルで接続し、設定画面を表示します。
2. サイドバーから[ネットワーク詳細設定]アイコンをクリックします。
3. [LAN 無線アクセスポイント]をクリックします。
4. [詳細設定]アイコンをクリックします。
5. 無線LAN アクセスポイントの設定画面が表示されます。

基本設定

[MACアドレス]

無線LANで使われるMACアドレスが表示されます。変更はできません。

[MTU]

MTU値を設定します。デフォルト値は「自動設定」です。

自動設定	通常はこちらで利用します。
手動設定	MTU値を手動で設定します。

[SSID]

無線LANで使用するSSIDを設定します。半角英数字で最大32文字まで入力できます。デフォルト値は「brcw108g」です。SSIDは無線LANの識別名です。同じSSIDを設定した無線LAN端末が接続できるようになります。

[SSIDを通知する]

SSIDを通知します。デフォルト値は有効です。

有効	チェックボックスをオンにすると有効になります。デフォルト値です。有効時は本製品のSSIDが通知され無線LAN端末からのアクセスポイント検索で本製品を見つけることができます。
無効	チェックボックスをオフにすると無効になります。設定を無効にすると、無線LAN端末からのアクセスポイント検索で本製品のSSIDは見つけられなくなります。不特定からのアクセスを防ぐため、無効に設定することを推奨します。

[802.11 モード]

本製品の無線LANのモードを設定します。デフォルト値は「802.11b/802.11g」です。

802.11b/802.11g	802.11bと802.11gが利用できるモードです。MIMO技術も利用できます。デフォルト値です。
802.11g	802.11gが利用できるモードです。MIMO技術も利用できます。
802.11b	802.11bが利用できるモードです。MIMO技術は利用できません。

[チャンネル]

無線LANで使用するチャンネルを設定します。デフォルト値は「11 - 2.462GHz」です。無線LANアクセスポイントを複数利用されているときは、他と重複しない値に設定することを推奨します。

自動	チャンネルを自動で選びます。
1 - 2.412GHz	1チャンネルを利用します。
2 - 2.417GHz	2チャンネルを利用します。
3 - 2.422GHz	3チャンネルを利用します。
4 - 2.427GHz	4チャンネルを利用します。
5 - 2.432GHz	5チャンネルを利用します。
6 - 2.437GHz	6チャンネルを利用します。
7 - 2.442GHz	7チャンネルを利用します。
8 - 2.447GHz	8チャンネルを利用します。
9 - 2.452GHz	9チャンネルを利用します。
10 - 2.457GHz	10チャンネルを利用します。
11 - 2.462GHz	11チャンネルを利用します。デフォルト値です。
12 - 2.467GHz	12チャンネルを利用します。
13 - 2.472GHz	13チャンネルを利用します。
14 - 2.484GHz	14チャンネルを利用します。 802.11bモード利用時に設定できます。

[接続認証]

オープンシステム認証が利用できます。変更はできません。

MAC アドレスフィルタリングの設定

［MACアドレスフィルタ動作モード］

MAC アドレスフィルタリングの動作モードを設定します。デフォルト値は「無効」です。

無効	MACアドレスフィルタの機能を使いません。デフォルト値です。
許可	MACアドレス設定した無線LAN端末からのアクセスを許可します。
拒否	MACアドレス設定した無線LAN端末からのアクセスを拒否します。

［MACアドレス設定］

MAC アドレスフィルタ設定したいMAC アドレスを入力します。 最大32 件まで登録できます。

［MACアドレスを追加］をクリックすると［MAC アドレス設定］画面が表示され、MAC アドレスが指定できます。

詳細設定オプション

詳細設定オプション

送信速度:	自動
CTSプロテクションモード:	自動
フレームバースト - 最大フレーム数:	3
フレームバースト - バースト回数:	2
ビーコンインターバル:	100 ms
DTIMインターバル:	1 ms
フラグメントしきい値:	2346
RTSしきい値:	2346

[送信速度]

送信速度を設定します。デフォルト値は「自動」です。

速度を特定の値へ設定すると、無線LANの通信品質が低下することがあります。設定は自動で使用することを推奨します。

自動	送信速度を自動にします。デフォルト値です。
1/2/5.5/11	送信速度を指定した値に設定します。802.11bモード利用時に設定できます。
1/2/5.5/6/9/11/12/18/24/36/48/54/72/96	送信速度を指定した値に設定します。802.11gモード利用時に設定できます。

[CTS プロテクションモード]

CTS プロテクションモードを設定します。デフォルト値は「自動」です。

なし	無効にします。
自動	有効にします。デフォルト値です。

[フレームバースト - 最大フレーム数]

フレームバーストの最大フレーム数を設定します。デフォルト値は「3」です。

[フレームバースト - バースト回数]

フレームバーストのバースト回数を設定します。デフォルト値は「2」です。

[ビーコンインターバル]

ビーコンインターバルを設定します。単位はmsです。デフォルト値は「100」msです。

[DTIMインターバル]

DTIMインターバルを設定します。単位はmsです。デフォルト値は「1」msです。

[フラグメントしきい値]

フラグメントしきい値を設定します。デフォルト値は「2346」です。

[RTS しきい値]

RTS しきい値を設定します。デフォルト値は「2346」です。

暗号化の設定

無線LANのセキュリティは必ず設定してください。

セキュリティの無効は、無線LANの通信傍受、不正利用、なりすまし、情報漏洩、データの改ざん、システム破壊、インターネットへウイルス配布やDoS攻撃の踏み台などが行える非常に危険な状態となり、ネットワーク全体の安全性が損なわれる恐れがあります。

お客さまの利益を守るためにも、セキュリティは必ず設定してご利用ください。

［暗号化］

暗号化を設定します。暗号化は有効で使用することを推奨します。

以下の3種類から利用する暗号化のチェックボックスをオンにし、それぞれ設定します。

［WPAを使用する］

［WEP(802.1X認証)を使用する］

［WEPを使用する］

■［WPAを使用する］場合

［認証方式］

以下の2種類から選択します。

プレシェアードキー	プレシェアードキーの認証方式を設定します。この認証方式を選択するときは、以下のプレシェアードキーの設定が必要です。
802.1x	802.1Xの認証方式を設定します。この認証方式を選択するときは、以下のRADIUSサーバの設定が必要です。

［プレシェアードキー］

プレシェアードキーを設定します。

文字列	最大63文字の英数字で設定します。
16進数	16進数で設定します。

［暗号化アルゴリズム］

暗号化のアルゴリズムを設定します。

TKIP	TKIPを設定します。
AES	AESを設定します。

［キー更新間隔］

キーの更新間隔を設定します。単位は秒です。デフォルト値は「900」秒です。

[RADIUSサーバ]

802.1X 認証で使用するRADIUSサーバを設定します。

サーバIPアドレス	RADIUSサーバのIPアドレスを設定します。
サーバポート	ADIUSサーバが使うポート番号を設定します。デフォルト値は「1812」です。
シェアードキー	シェアードキーを設定します。

■［WEPを使用する］場合

［キー長］

WEPで使用するキー長を設定します。

64(40)ビット	64ビットのWEPキーを設定します。
128(14)ビット	128ビットのWEPキーを設定します。

［WEPキー］

WEPキーを設定します。

有効	デフォルトで使用するWEPキーのチェックをオンにします。
暗号キー	WEPキーを入力します。キー長で設定した内容によって入力 できる文字数が変わります。
入力方法	WEPキーの入力方法を設定します。

キー長と入力方式の対応

キー長	入力方法	暗号キー
64(40)ビット	16進数	10桁
	文字数	5文字
128(104)ビット	16進数	26桁
	文字数	13文字

使用できる文字

入力方式	入力可能な文字
16進数	0～9、A～F、a～f
文字数	半角英数字

[WEP(802.1X認証)を使用する]

802.1Xの認証方式を使用するときチェックボックスをオンにします。この認証方式を選択するときは、以下のRADIUSサーバの設定が必要です。

[キーを自動生成する]

802.1X認証を使用するとき設定可能です。キーを自動生成するときはチェックボックスをオンにします。

802.1X-MD5ステーションの接続を許可する時は無効にします。

[RADIUSサーバ]

802.1X認証で使用するRADIUSサーバを設定します。

サーバIPアドレス	RADIUSサーバのIPアドレスを設定します。
サーバポート	ADIUSサーバが使うポート番号を設定します。デフォルト値は「1812」です。
シェアードキー	シェアードキーを設定します。